

## ゴジュウガラ



どちらかに命名されたのかは定かではありませんが、シジュウガラに対してのゴジュウガラのような気がします。日本ではシジュウガラは全国的ですが、ゴジュウガラは私の体験では東京以南で見たことがありません。図鑑（亜璃西社）の説明では本州域にも分布しているようです。初めて見たのも北海道に来てからでした。頭を下に向けて樹幹を駆け下る動きに驚嘆させられたことでした。この独特の動きにより、紛れることなく識別できます。

装いの配色がカラ類に似ていなくもないし、しばしば混群しているのでゴジュウガラと命名されたのかもしれませんが、スズメ目ゴジュウガラ科として別科に分類されています。カラ類に比べて尻尾が短くずんぐり体型で、前記のような特異な動きをするのでよく判ります。

いま一つ特筆すべき習性があります。こともあろうにクマゲラの巣を乗っ取る芸当が出来るのです。テレビでその一部始終を見てビックリしました。ご記憶の方もあろうかと存知ますが、クマゲラの巣づくりが完成に近づきます頃、家主の留守中に巣の入り口に粘土等を塗りたくりまして、入り口を狭める妨害処理を施すのです。それを繰り返しまして家主に嫌気を起こさせ追いたててしまい、後に自分の巣にしてしまうのです。クマゲラは希少生物です。その繁殖を妨害するとはケシカランと思うのでありますが、その奇想天外な振る舞いと努力に敬服し、笑って許す気にさせられてしまうのであります。



2007年3月22日。北海道神宮の奥宮「神社山」での巨木調査での昼食中、一羽のゴジュウガラが現れましてしばらく近くで忙しそうに立ち回ってくれました。少し遠かったので写真の出来はあまり良くはありませんが、画像をゲットいたしました。

神社山は札幌円山動物園に近接しています。平面形状は前方後円墳のように見える独立峰です。山頂はEL.237メートル、平面面積約20ヘクタールほどの小山であります。周囲をびっしり住宅に囲まれてしましまして、入山口が3ヶ所しかありません。大昔の作業道らしき跡はありますが、近年はどの入り口からも道がついていないので、自然状態が保全されています。特に東側斜面は原始林状態の部分がありましてそこに巨木（幹周り3メートル以上）が散見されるのでしっかり調査しておこうとなったのです。予備的計測ですが北海道最大と称されている黄金湯の「千本桂」を上回りそうなカツラの巨木が現れそうなのであります。

正式な調査は雪が消えて地面らの高さがきっちり計測できるようになってから行なわれます。結果は「森ボラ通信」等で公表されるでしょう。